[事案 2019-274] 新契約無効請求

・令和2年5月14日 裁定終了

※本事案の申立人は、法人である。

<事案の概要>

募集時の説明が不十分であったことを理由に、契約の無効を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成28年8月に契約した低解約返戻金型逓増定期保険について、以下の理由により、契約を無効とし、既払込保険料を返還してほしい。

- (1)パンフレットおよび設計書により、5年経たずに解約すると返戻金が低くなる商品と説明されたが、設計書に5年払済後の解約返戻金の表があったので、保険料は5年間払わなければならないかと募集人に確認したところ、3年で払済にできるとの回答だった。
- (2)上記(1)のやりとりから、3年払えば払済にして、契約から5年経って解約すれば、解約返戻金は低くならないことを確認して契約した。

<保険会社の主張>

以下の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1)募集人は、申立人が主張するような説明はしていない。この商品については、通常「5年分の保険料をお支払いいただければ解約返戻金が立ち上がる商品である」と説明している。
- (2)パンフレット、設計書、約款にも申立人が主張するような内容は一切ない。
- (3)申込時に意向確認書に署名があり、申込内容についても、申込書類、設計書で確認してもらっている。
- (4)募集人の記憶によれば、複数の商品を検討し、本契約のメリット・デメリットを把握した上で、提案・契約に至ったと推察される。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会では、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約締結時の状況と和解を相当とする事情の有無を確認するため、申立人代表者および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、募集人の説明不足は認められず、その他保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。